

第2学年 国語科学習指導案

指導者 熊本大学教育学部附属中学校 田中 隆太郎

I 題材名 語句・語彙の指導 ～「走れメロス」を使って～（光村図書）

II 題材について

1 題材観

言語事項の知識や技能は、すべての国語科の学習の時間や読書活動において形成されていくべきものである。本題材は、音から受ける印象の違いや語句の意味・用法の違いを明らかにする学習を通して、語彙についての関心を高め、理解や表現に生かしていこうとするものである。言葉は単に辞書的な意味にとどまらず、他の語とつながりを持ちながら文脈の中で生きて働いている。小説「走れメロス」には、漢語的な表現や、生徒たちが普段使う話し言葉にははてこないような語句や表現が多く出てくる。このような優れた文学作品の語句や表現に注目することで語感を磨き語彙を豊かにすることをめざしていきたい。

2 系統観

今回の学習では、文学教材「走れメロス」を使って、語彙・語句の指導を行う。取り立て教材として用意されている「語彙・語句」に関する題材は、次のような配列になっている。

	語句・語彙に関する題材	「走れメロス」との関連
第1学年	「語のいろいろ」（漢語・和語・外来語）	第1学年での学習（漢語・和語）を踏まえながら、語句と語句との共通点や相違点を考えたり、語を置き換えたりしながら語感を磨いていく学習を行う。
第2学年	「語の意味」（対義語・類義語・多義語）	
第3学年	「語句の組み立て」（漢語や和語・外来語の組み立て・複合語・慣用句）	

本題材（類義語・対義語）と3領域との関連は、次の通りである。

領域	指導事項	指導事項に関わる学習の内容
話すこと 聞くこと	語句や文	適切で効果的な語句の使い方に注意して話したり聞いたりする学習
書くこと	記述	自分の意見が効果的に伝わるように語句を選んで書く学習
	推敲	文章を読み返して、読みやすくわかりやすい文章にする学習
読むこと	語句や意味の用法	文脈の中での語句の効果的な使い方について理解する学習
	表現の仕方	文章の特徴に注意して読む学習

3 生徒の実態

本学級は、真剣な態度で授業に参加する生徒が多く、発問に対する反応も比較的良い。表面的な考えにとどまった発言も多いので、深く考えさせたい。言語事項に関しては、国語が苦手である原因として、漢字や語句の知識の不足をあげている生徒が4割程度いる。理由としては、「言葉を知らないから」「漢字が覚えられないから」などをあげている。また、漢語・和語の違いについての記述式の質問に対しては、言葉の成り立ちなどの知識は見えるが、その特徴や語感の違いまで言及している生徒はほとんどいない。これらのことから、言語事項に焦点をあてた学習の中で、言葉の意味の違いや関係のおもしろさを発見したり、語句・語彙の学習の仕方を身につけたりしていくことは、大変有効な手だてだと思われる。今後の国語学習の中での読みや書きに役立つような言語事項の視点を与え、様々な場面で語句を意識するきっかけとなるような授業を目指したい。

4 研究の視点にそった授業の工夫

次のような視点で授業の展開を考え、「自らの学びを高める」言語事項の学習を行いたい。

(1) 視点①について

和語・漢語や類義語・対義語の印象や意味・用法の違いを説明する学習をすることで、言葉の学習のおもしろさを体感し、語句への興味・関心を高めることへつなげる。

(2) 視点②について

和語・漢語や類義語・対義語の学習をふまえて、単なる知識のみではなく、小説「走れメロス」の中のさまざまな言葉に注目し、語句の深まりや広がりなど、「読むこと」の学習に役立てる。

(3) 視点③について

学習した語句や表現をノート（表現ノート）にまとめ、学習を振り返ることを、自己評価の観点として位置づける。また、語句の広がりや深まりを記録し蓄積していくことで、学習後の自分の表現に生かすことができるようにさせる。

III 学習指導の目標

<p>○慣用句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句の意味や用法に注意すること。 （第2・3学年 [言語事項] - (1)-イ）</p> <p>○抽象的な概念などを表す多用な語句についての理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにすること。 （第2・3学年 [言語事項] - (1)-ウ）</p>
<p><読むことへの発展></p> <p>○文脈の中における語句の効果的な使い方について理解し、自分の言葉の使い方に役立てること。 （第2・3学年 C-ア）</p> <p>○表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと。 （第2・3学年 C-ウ）</p>

◎ 語句の意味や使い方について理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにする。

IV 指導と評価の計画（4時間取り扱い）

次	時	学習活動	評価規準	評価方法
1	1	・漢語と和語を復習し、語句や表現に注意して「走れメロス」を読む。	<p><関心・意欲・態度></p> <p>1 語の意味や用法の違いに関心を持ち、言葉の働きについて考え、学習した語句を使い、自分の表現に生かそうとしている。</p> <p><言語事項></p> <p>1 漢語や和語・類義語・対義語についての理解を深める。</p> <p>2 それぞれの語句の持つ意味の違いや語感の違いを説明することができる。</p>	<p>・ワークシート 記入</p>
	1	★漢語や和語に注目し、文中における語感の違いを感じ取る。		
2	1	★類義語の意味的な関係を捉える。 ☆「走れメロス」の文中の語句について、意味や用法・語感の違いを理解する。	<p>発展</p> <p><読むこと></p> <p>1 文章の特徴や、語句の効果的な使い方を理解して、自分の言葉の使い方に役立てることができる。</p>	<p>・ワークシート 記入</p> <p>・表現ノート ・ワークシート</p>
	1	★対義語について理解を深める。 ★これまでの学習を表現ノートにまとめる。		

V 本時の学習

1 目標

○ 類義語の意味・用法の違いや関係を捉え、文章中に用いられた語句の特徴や効果を理解することに役立てる。

2 評価

評価項目	具体的な評価規準	つまづきへの手立て
関心・意欲・態度	○語の意味や用法の違いに関心を持ち学習した語句を使い、自分の表現に生かそうとしている。	○表現ノートの添削や個人指導により、語句の用法の指導などを行う。
言語事項	○類義語の意味や用法の違いを説明することができる。	○類義語の意味や用法の違いを説明するワークシートを用い、班活動中に教師による個人指導を行う。

3 展開 ★言語技能を身につける活動 ☆言語技能を生かす活動

過程	学 習 活 動	時間	基本発問・指示
導入	1 似た意味を持つ語（類義語）を学習することを覚える。	5	○本日の学習内容を確認しよう。→類義語
展★ 開	<p>2 類義語について学習し、意味・語感・用法の違いを説明する。</p> <p>(1)類義語の概要をつかむ。</p> <p>(2)それぞれの類義語について、次の視点で、その違いについて考える。</p> <p>①語感の違い 同じものを指すが、違う言い方をする語</p> <p>②意味・用法の違い 同じような意味だが、意味に多少のずれがある語</p> <p>③言葉の構成レベルの違い 同じような行為を表すが、単語・複合語・句のように言葉の構成レベルが違う語句</p> <p>(3)ワークシートを使い、類義語の違いを理解したかどうか確認する。</p>	15	<p>○それぞれの語句は、どんな違いがあるか考えてみよう。</p> <p>○次の類義語の例題について考えてみよう。</p>
☆	<p>3 「走れメロス」の文章中の、笑う行為を表す語に注目し、意味や用法の違いなどに気づき、文章中での言葉の唯一性を考える。</p> <p>(1)「憫笑」「嘲笑」意味の違いを辞書で調べる。</p> <p>(2)誰が、何を「哀れむ」・「あざける」のかを考える。 (前後の文から) (王とメロスの立場から)</p> <p>(3)「ほくそ笑む」について筆者の意図を考える。</p> <p>4 「笑う」「嘲笑」「憫笑」「ほくそ笑む」「低く笑う」の関係を捉える。</p>	20	<p>○それぞれの意味を辞書で調べてみよう。</p> <p>○筆者は、このときの王の笑いを、なぜ「憫笑」としたのだろう。</p> <p>○筆者は、このときの王の笑いを、なぜ「ほくそ笑む」としたのだろう。</p> <p>○それぞれの語句の関係を考えてみよう。</p>
まとめ	<p>5 学習を振り返り、類義語の意味的關係について整理する。</p> <p>(1)表現ノートの整理をする。</p> <p>(2)学習した言葉を使って、短文を作る。</p> <p>※発展→笑う行為を表す語をたくさん探し、分類をする。</p>	10	<p>○類義語の意味的關係について、表現ノートにまとめよう。</p> <p>○学習した言葉を使って、自分の生活に關係のある短文を作ろう。</p>

教師の支援	評価 ●は言語技能の評価 ()は評価の方法	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・1年時に学習した「漢語・和語」の中から類義語の例を出し、理解させる。 		<p>「雪やこんこ、あられやこんこ」 光村2年)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・類義語の意味をおさえる。 →別の語でありながら、似た意味を持つ2つ以上の語。 ・それぞれの違いについて、口頭や論述、図示などによって考えさせる。 ・一斉、個人、隣同士などの学習形態を、場面によって効果的に工夫する。 ①漢語・和語・外来語などの例を比べさせる。 ②意味の違いを言葉で説明したり、図に表したりしながら考えさせる。 ③わかりやすい語例を示して、体系的につかませる。 <p><つまずきの手だて> 個人での学習の後、隣同士で確認をし、必要に応じて適切な説明の例の発表を聞き、確認をさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・笑う行為を表す語は、事前に抜き出させておく。 「憫笑」「嘲笑」「ほくそ笑む」 「低く笑う」「せせら笑う」 ・辞書的な意味と、文脈上の意味を比べさせる。 ・班での話し合いをさせる ・他の人に説明するための話し合いになるようにさせる。 ・(2)と同じような視点であるので、個人で考え表現させる。(一斉→個人) ・和語と漢語の関係、単語・複合語・句の関係であることを理解させ、それぞれの使われ方を知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○それぞれの類義語について、具体的な評価規準を持って、意味や用法の違いなどを説明することができるか。(生徒の活動観察、相互評価) ●ワークシートの例題について、類義語の違いを説明することができたか。(ワークシート) ○「笑う」という行為を表す多用な語句について、意味や用法の違いがわかり、説明することができたか。(生徒の活動観察、ワークシート) 	<p>「言葉の学習3」語の意味 (光村図書2年)</p> <p>ワークシート ①</p> <p>ワークシート ②</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・漢語と和語の類義的な関係についても触れ、その関係をまとめさせる。 ・主語・述語のある文章を作らせる。 <p>※発展的に、語句の分類を促す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●学習を振り返り、類義語の意味的な関係についてまとめることができたか。(表現ノート) ○学習した語句を使い、自分の表現に生かすことができる。(表現ノート) 	<p>表現ノート</p> <p>表現ノート</p>